

今さら聞けない#67・・「男の峠道」

1. 「男の峠道」

右掲は三波春夫さんの「男の峠道」(‘90年)の歌詞です。三波さんが’23年の生まれですから、67才の時の曲です。歌詞はそれぞれ

- ・「苦勞六つに喜び一つ 後の三つは世間が決めた」
- ・「汗が六つに根性一つ 後の三つは運命に任せ」
- ・「義理が六つに身体が一つ 後の三つは女房に借りた」

で始まり、「男 五十の峠道」と続きます。「五十」は二十歳から仕事の道に入ったとすると丁度30年経過した時で、それなりに社会的な安定感が出来た頃です。そして、「よかったな よかったな お前と二人でよかったな」で絞め括っています。

「峠」は「山道を登り詰めて、そこから下りになる場所」ですから「男 五十の峠道」は論語いう「四十にして惑わず、五十にして天命を知る」という境地を言っているのではないかと考えています。若い時に「道」を志し、「苦勞」して「努力」を重ね、そして、世間との関係が安定して「不惑」を迎え、そして「知命」を経て「夢と涙を背負って超えて」とあるように努力が実り安定して行くという「片峠」(峠の片側のみ高低差がり、反対側は平坦に近い)を指しているように思います。

しかし、最近では時代の変化が激しくなり築いたものが陳腐化する速度が速くなっており、「片峠」ではなく両側が厳しい坂道の「峠」に近くなっています。従って、「一本道」という人生は望ましいのですが、最近では「リスキング」という言葉が出ており、社内人材に新しい技術を身に着けて頂くために国が助成金を出す時代です。「キャリアアップ」という言葉が一般化して「一所懸命」という考えではなく、自身の実力を発揮できる場所を求めるようになり「転職」サイトや人材登録してスカウトを待つサイトなどが盛んに告知されています。

苦勞六つに 喜び一つ
後の三つは 世間が決めた
男 五十の 峠道
越えて振り向きや お前の笑顔
よかったな よかったな
お前と二人で よかったな

汗が六つに 根性一つ
後の三つは 運命に任せ
男 五十の 峠道
夢と涙を 背負って越えて
よかったな よかったな
お前と二人で よかったな

義理が六つに 身体が一つ
後の三つは 女房に借りた
男 五十の 峠道
恩と情けの 夕焼け雲に
よかったな よかったな
お前と二人で よかったな

2. 遅ればせながら

私自身は、関学を卒業して縁あってトヨタ系販売店に就職したのは1浪でしたので23才の時です。「コンピュータをやりたい」という願いを叶えて下さった大恩ある故福井社長から「クルマが売れるコンピュータ」という大きなミッションを頂き20年頑張り「出る杭」になりましたが、周囲の環境が変わり「叩かれる」状況になり、43才の時に「社長はクルマの道、私はシステムの道」という辞表を出して、関連会社へ転職し、3年の間に船井総研の客員経営コンサルタント養成学校に通い客員経営コンサルタントの資格をとって、社内的な事情もあって起業したのです。

平成7年(‘95年)7月創業ですから30周年になります。「男 五十の峠道」は、その道で30年という意味だと解釈すれば、76才にして、やっと「男 五十の峠道」に差し掛かったと喜んでいきます。会社は無事に三男にバトンタッチすることが出来ました。お陰様で長男は京都の上場企業に勤務し、次男は東京で中堅の建築機械製造卸で頑張っており、それぞれ2人の孫がおり、さらにマイホームをもっています。彼らも「男 五十の峠道」に差し掛かっておりますが、私の姿を見ているので、今のところ「片峠」で済みそうです。

私に欠けているのは「よかったな よかったな お前と二人でよかったな」と幸福を分かち合う妻に先立たれていることです。お陰で会社も順調なので、相談役となって三男をサポートできますし、年金も人並みに頂いているので残るは「健康」だけです。しかしながら、この30年間は九十九折の峠道でありました。お陰様でお客様に恵まれて今日に至ることが出来、さらに、遅ればせですが、相談役で仕事を続けることができる環境で「健康」=「運動」x「食事」x「社会」のアンチエイジングの3要素を満たすことが出来ているという幸せに巡りあっています。

3. 「人生100年時代」

しかしながら、気が付くと満76才になっており、若い心算でも体力的な衰えを痛感することが多くなってきました。「男の峠道」では経済的な面では衣食住でも資産があるので年金だけでも十分に暮らしていける「片峠」ですが、体力的な面では下り坂を実感するようになりました。アンチエイジングで「健康」＝「運動」x「食事」x「社会」も心掛けています。「運動」では自転車に乗る機会が多くなり、その分、歩く機会が減りました。その反面、自転車で行動半径が大きくなり、休日には三男と一緒にいろんなお店に行くようになっています。「食事」は自炊ですが、逆流性食道炎と診断されてから、油濃いものや刺激物を避けており、さらに、咀嚼回数を多くして消化が良くなるように努めています。「社会」は朝の喫茶店・事務所・自宅というサイクリックな生活の中で、土日は事務所のあるマンションの老人会に場所を提供して茶話会を開催しています。また、自宅マンションでは立体駐車場の解体で委員として参加して交渉事に参加しています。

しかし、統計的に見ると男性の平均寿命は81.09年ですが、健康寿命は72.61年とのことなので、既に健康寿命の平均を超えています。右掲は「長生き確率表：XX歳になるまで生きる確率」というHPで76才男性を調べたものです。80才まで生存する確率は約84%、85才は約58%、90才は約30%、95才は約10%、100才は僅か約2%とあります。確かに、同世代の訃報が多くなっている事実があります。

男性の長生き確率（75歳以上の男性が生存する確率） （確率）（長生き確率）（生存率）（生存率）（生存率）（生存率）											
年齢	生存率	生存率	生存率	生存率	生存率	生存率	生存率	生存率	生存率	生存率	生存率
75歳	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
80歳	84.2	79.5	74.6	69.4	64.0	58.4	52.7	47.0	41.4	35.8	30.2
85歳	58.0	53.0	48.0	43.0	38.0	33.0	28.0	23.0	18.0	13.0	8.0
90歳	30.0	25.0	20.0	15.0	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
95歳	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
100歳	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

つまり、健康に留意して僅か2%ですが「百歳現役」を目指したいのですが、肝腎の「生き甲斐」という課題があります。ただ単に「明るく・元気に」を願うのではスローライフに慣れることですが、それだけでは「夢」やチャレンジする事がない状態です。仕事は朝8時半出社～11時帰宅～2時再出社～5時半帰宅というスタイルで計6時間を事務所で過ごして、このような記事を書くようにして「隙間時間」を無くして比較的充実した時間を過ごしていますが、「共に喜ぶ」という連れあいを無くしている事が課題です。

4. 次のステージ

創業30年で三男に事業承継ができました。「男の峠道」にあるように、30年間、九十九折の坂道を登り切り、ようやく、相談役となって経験を活かすステージに到達できました。お陰様で資産や年金にも恵まれて、スローライフの必要な条件を得ています。「片峠」で、これからは落ち着いた生活スタイルで無理をせずに「百歳現役」を目指したいと思っています。

「生き甲斐」の一つに「充実した時間」を過ごすことが挙げられますが、私は物を書くことが好きなので事務所でパソコンに向かっています。その一つに毎週発信している2つのメルマガがあります。その記事の一つに「[栩野正喜の勁草塾](#)」を書き始めています。HTMLメールで発信しているのでクリック状況が確認できており、開封率は30%になっています。読まれている状況も把握できており、まだ僅かですが毎号読んで頂ける人がいらっしゃいます。「読んで頂ける」ということは大変ありがたい事であり、この記事が参考になり「愛語回天」に結びつけて頂ければ最幸と思っています。そして、「名伯楽」はすぐれた資質を持った人を見抜く力のある人物を意味ですが、私の記事が「愛語回天」になり、その方の人生が変わることに貢献できれば最幸という意味で「名伯楽」を目指したいと思っています。

故福井社長に「社長はクルマの道、私はシステムの道」と辞表を出して、高給を捨て、この30年間、「自分の道」を歩んで来ました。お陰様で三男に事業承継して「峠越え」が出来ました。同じ年の方々は年金暮らしが大多数ですが、私はお陰様で相談役として息子の支援をできて充実した時間を過ごせることに感謝しています。